

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 沖田 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

##### 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

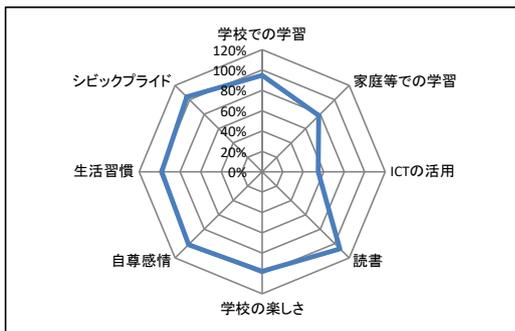
#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと・書くこと」などの思考・判断・表現に関する内容が下回っていた。また、自分の考えを記述する内容の問題についての無回答、不正解率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	物語の文章の中から、その情景を読み取る問題。	
	努力が必要な問題	自分の考えをまとめて記述することを問われる問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に正答率が低い傾向にある。特に「データの活用」の領域の正答率が低く、無回答率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「数と式」「関数」の領域における基本的な知識・技能を問う問題。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に捉え、数学的な表現を用いて説明する問題。	

理科	全体的な傾向や特徴など	空間的な思考を伴う問題に対して正答率が低い傾向にある。また、学習の定着度に応じて、正答率に差が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域において、実験データを基に仮説の妥当性を判断する問題。	
	努力が必要な問題	『地球』を柱とする領域において、その事象を捉えるために思考を重ねて解決に至る問題。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の量・質が十分に確保されていないことが、学力の定着に影響していると考えられる。特に自宅での計画的な学習や復習の習慣化に課題が見られ、基礎的・基本的な内容の習熟に差が生じている可能性がある。</li> <li>・学校生活全般(学習意欲、生活習慣、自尊感情、学校の楽しさ)は全国平均並みである一方、「家庭等での学習」と「ICTの活用」についてはかなり低い結果となっていた。学校での学びを家庭に持ち帰り、継続的に取り組む仕組みづくりを進めていく必要がある。また、タブレットの更新を境に、授業での活用が進んできているが、今後も更に授業等の様々な場面でのICTを活用した取組を進めていく。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

授業での取り組みの中で「自分の考えを説明する機会」を増やし、日常の学習習慣を見直すことで、継続的な学力向上を目指した取組を進めていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習は、基礎的な学力の定着だけでなく、学ぶ力や自己管理能力を育てる上で欠かせない取組となっている。そのため、生徒が無理なく学習に向かう習慣を身に付けられるための支援を家庭と連携していく。